

2016

# 今言わなければ



香川県仏教会副会長・専光寺住職

佐々木 安徳さん

憲法9条1項は平和の実現という「願い」を示します。

2項はその実行のための具体的な約束、つまり武器を持たないという「誓い」を明記します。願いと誓い。浄土真宗の重要なお経に「誓願」という概念がありますが、1項と2項を合わせた9条の精神はこれに合致すると思います。

## 野合批判は矛盾

お経には、例えば「私が仏となるとしても、世の中に畜生などの悪がある時は、私は仏にならない」という誓いが出てきます。「世界が平和になる」と言っても、それが武器によるものであれば、拒絶する。平和は条件付きであっ

# 9条は教えと合致

てはいけない。仏教者の立場から、私はそう考えます。

安倍政権は公約違反を重ねているのに、それをあたかも正当なことであるように語る。過去の選挙で安倍政権を勝たせてきた私たち国民の判断も、実は今回の選挙で問われていると思います。

野党が「正しい事」を主張してきたとしても、方向が正しいというのはハンドルがあるということだけで、実際に前に進めるにはエンジンが必要で、国民のためになる政策を本当に実現するには推進力がある。野党共闘に踏みだした共産党の判断は大きな一歩だと歓迎しています。

与党は野党の「野合」を批判するけれど、言えた筋合いじゃない。森元首相が「日本は神の国」と言った。仏教の立場

に立つとしている創価学会としては教えを全否定されているのに、公明党は自民党とくっついている。「野合」を言うほど自己矛盾が深まります。

## 慈悲による怒り

仏教に「癒やし」のイメージを持つ人が多いけれど、「慈悲による怒り」という教えもあります。悪事や被害に対する怒りだけでなく、「道理にたつた怒り」を持つべきです。

福島原発事故後、学者たちが現地で「大丈夫だ」と言い続けたけれど、実際はそうではなかった。今なおふるさとに帰れない人がいます。人間の尊厳を奪われることへの怒り。不動明王など、怒りの相を持つ仏像は多い。仏教は癒やしだけじゃないんです。  
(聞き手・写真 安川崇)